

胃癌における EGFR タンパク発現と遺伝子増幅の相関に関する検討

<研究の背景>

EGFR分子を標的とした大腸がん抗体治療薬セツキシマブが本邦で2008年に承認されました。これに伴ってこの薬を使う前に、どの患者さんにこの薬が有効かを調べる目的で、免疫組織化学染色（IHC）によるEGFRタンパク発現スクリーニング検査が不可欠となっています。胃がんでも同様の抗EGFR抗体薬の臨床試験が行われていますが、大腸がんとう胃がんではEGFRの染色のされ方に違いがあることが予測されています。また、EGFRの免疫染色結果とEGFRの遺伝子増幅の関係は、十分に明らかにされていません。

<研究の目的>

胃がんとう大腸がんとのEGFR IHCの染色性および遺伝子増幅の違いを明らかにします。

<研究対象>

2011年5月から2013年12月までに国立がん研究センター中央病院において診療のために採取された生検材料、または切除された胃がんの手術材料で、診断の終了したもののうち最大200症例のパラフィンブロックを用います。

<研究の方法>

胃がんのEGFR免疫染色を行い、またEGFRの遺伝子増幅を調べ、大腸がんとの違いを検討します。また、現在胃癌の分子標的薬の対象となっているHER2の免疫染色も同時に行い、その分布の違いについても検討します。

<個人情報保護に関して>

本研究では個人情報には匿名化され、個人が特定されることはありません。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。上記の研究対象に該当する患者さんで、ご自身の検体を本研究に使わないで欲しいというご希望があれば、以下の連絡先までご連絡ください。

研究代表者:

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

国立がん研究センター中央病院 病理科・臨床検査科 谷口 浩和

電話 03-3542-2511、FAX 03-5565-7029